

第6回（平成23年）
「大和郡山・金魚検定」

解 説

<分 野… 大和郡山>

<難易度… 上 級>



大和郡山・金魚検定認定委員会

問題1

【正 答】 ② 大和郡山市役所の周辺には大規模な濠に囲まれた集落が営まれ、当時も一帯における拠点的な集落として機能していた。

【解 説】

市内では、田原本町の唐古・鍵遺跡や天理市の平等坊・岩室遺跡のような大規模環濠に囲まれて弥生時代を通して営まれた拠点的な集落がまだ確認されていない。①矢田丘陵では小泉遺跡や西田中遺跡で集落遺跡が確認されている。西ノ京丘陵でも郡山城の下層などで同様の集落が確認されている。③八条遺跡や八条北遺跡で多くの方形周溝墓が確認されている。④は田中垣内遺跡のことで溝に囲まれた集落が確認された。出土遺物の一部はアピタ大和郡山店内で展示されている。

【参 考】

『大和郡山発掘総まくり - 郡山の遺跡と発掘調査 - 』大和郡山市教育委員会
2008

『八条遺跡』奈良県立橿原考古学研究所2006

リーフレット「矢田丘陵周辺の弥生時代集落」大和郡山市教育委員会2011

問題2

【正 答】 ③ 笹尾古墳

【解 説】

小泉町に所在する病院の敷地内にある古墳。全長12.5mの横穴式石室は市内でも屈指の規模で、なかには1mを超える巨石も使用している。現在石室の入口が開口しており、病院の事務所に断れば自由に見学ができる。①額田部狐塚古墳、④小泉大塚古墳は発掘調査後に埋め戻されたため、現在は主体部を見ることができない。②新木山古墳は宮内庁管理で立ち入りできない。

【参 考】

『第4回こおりやま歴史フォーラム 矢田丘陵周辺の古墳文化 - 郡山・斑鳩・平群の古墳を考える - 』大和郡山市教育委員会1998



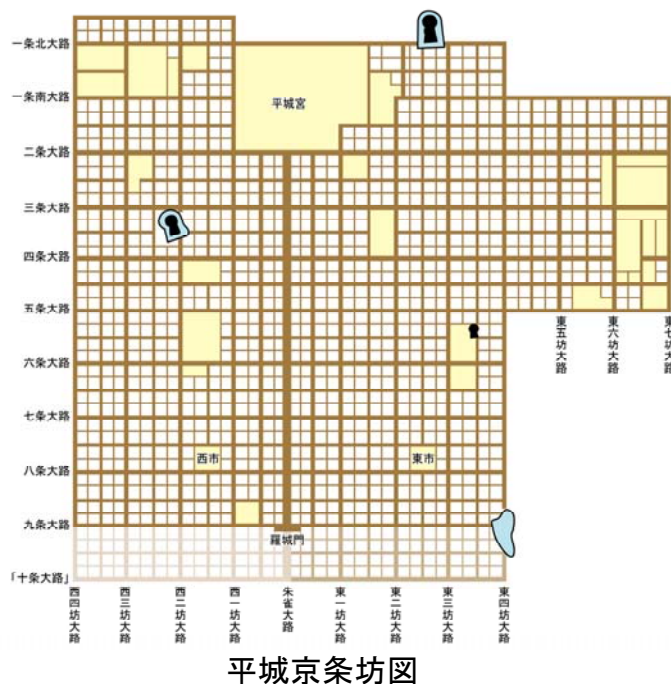
笹尾古墳石室内部

問題3

【正 答】 ② 九条大路

【解 説】

平城京の条坊痕跡は現在の地割にも残存する部分が多い。平城京条坊の形状は図のとおり。朱雀大路は羅城門から平城宮まで平城京の中心を南北に通るメインストリート。九条大路は羅城門が位置する東西方向の道路で、京の南端とされている大路。イオンモール大和郡山建設の事前調査で平城京造営当初は九条大路以南にも条坊道路が施行されていたことが明らかとなり、新発見の「十条」として注目された。「十条」の範囲や性格については議論の最中である。



平城京条坊図

【参 考】

『図説 平城京事典』 柗風舎2011

問題4

【正 答】 ① 横田堂垣内遺跡では、直径約1m、長さ約3mの巨大な木材を割り貫いた井戸がつくられた。

【解 説】

2007年に横田町でおこなった郡山ジャンクション建設の事前発掘調査でみつかった遺跡である。奈良時代から平安時代の掘立柱建物や間いにある井戸などが調査された。巨大な一本の材を加工して井戸を作る例は少なく、注目される。瓦が多く出土することから、周辺に瓦葺きの建物があった可能性も高い。

②郡山城の範囲内でも一部で奈良時代の遺跡が残っていることがこれまでの調査で確認されている。

③清掃センター建設の事前調査で富本銭が出土したが、完成品が1点出土ただけで生産していた痕跡はない。

④別對遺跡では平安時代の土坑墓が密集している状況が確認されている。当時の墓制を考える上で注目される。



横田堂垣内遺跡の井戸

【参 考】

- 『横田堂垣内遺跡』奈良県立橿原考古学研究所2011
- 『大和郡山城』城郭談話会2009
- 『平城京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』大和郡山市教育委員会1990

問題5

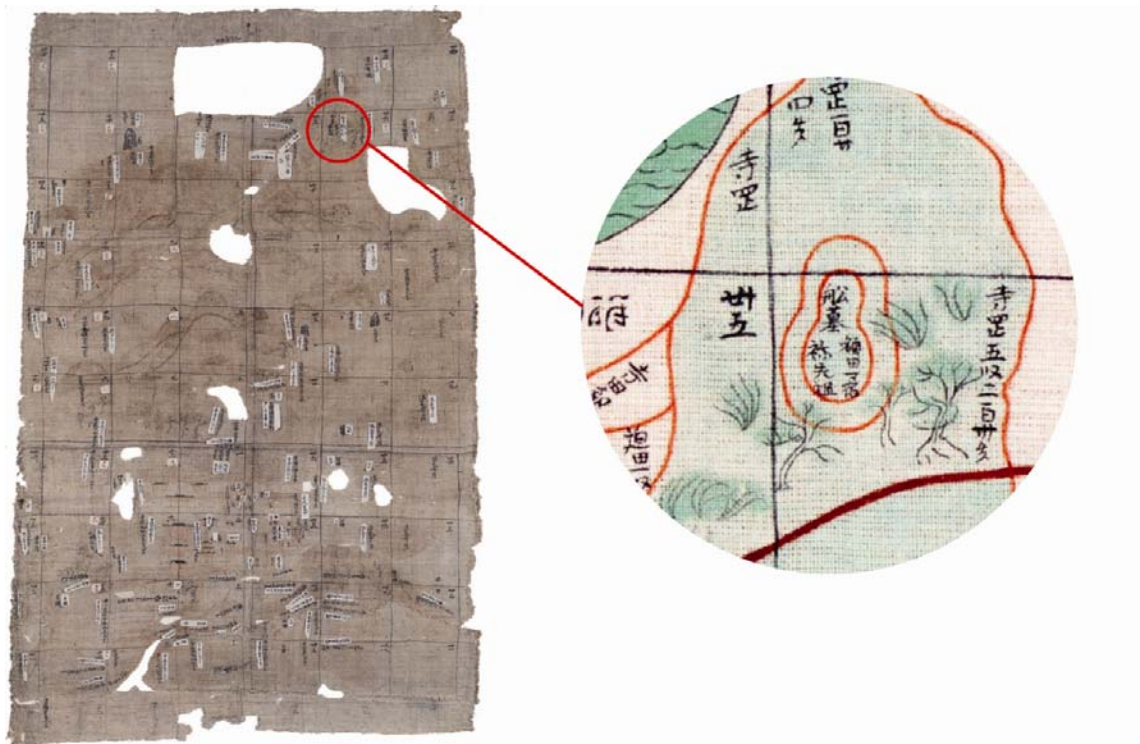
【正 答】 ④ 船墓古墳

【解 説】

『額田寺伽藍並条里図』は、縦110.6cm、横71.2cmにつなぎ合わせた麻布に伽藍と寺領を描いたもので、奈良時代末の作と考えられる。額田部地域には現在も多くの古墳が残存しているが、これらの多くが絵図に描かれている。船墓古墳はこの中で唯一名前が記された古墳で、瓢箪形の墳丘の中に「船墓額田宿禰先祖」とある。①～③は額田部地域に所在する古墳ではない。

【参 考】

『国立歴史民俗博物館研究報告』第88集 国立歴史民俗博物館2001



『額田寺伽藍並条里図』と該当部分の拡大（復元）

問題6

【正 答】 ④ 唐招提寺の金堂

【解 説】

羅城門は平城京の玄関部分に相当する門だが、規模や構造は明らかになっていない。地表にその痕跡を見ることもできない。門の位置を現在は佐保川が流

れているが、川に架かる橋上から北を望むと平城京を一望することができる。北方には復元された平城宮の朱雀門や大極殿が、北東の遠方には東大寺の大仏殿や興福寺の五重塔を見ることができる。北西をみると、清掃センターの奥に薬師寺の東西両塔の頂部をわずかに覗くことができるが、「天平の甕」とうたわれた唐招提寺の建物はみることができない。

問題7

【正 答】 ② 松尾寺

【解 説】

山田町に所在する寺院。創建は古代まで遡るとされるが、当時の伽藍などは明らかでない。発掘調査で奈良時代の土器や瓦が出土している。現在の本堂は室町時代のもので重要文化財となっているほか、彫刻や絵画など多数の指定文化財を所有している。この大黒天像は高さ約82cmの木造。現在「大黒さま」といえば、七福神の一人として広く親しまれている。ところが、この像は写真のように目をつり上げて口を固く結んだ怒りの表情をしている。これは、大黒天が本来もつ武神としての性格の名残であり、古い時期の特徴をよく示しているといえる。

【参 考】

『大和松尾寺の歴史と文化』 松岡秀道1977



問題8

【正 答】 ① 松平 忠明

【解 説】

荒木又右衛門は、慶長4年（1599）伊賀国 荒木村（現 伊賀市）に生まれ、成人してから柳生但馬守宗矩に新陰流の指南を受け、宗矩から自分の幼名の又右衛門の名をいただき、終生又右衛門を名乗った。寛永の初め、岡山藩主池田忠雄に仕えたが、のち、郡山藩主松平下総守忠明に仕官して250石を賜わり、剣法の師南役となり、箕山（現 城南町）に屋敷を構えた。

【文 献】

『ふるさと郡山 歴史事典』（大和郡山市）

『郡山百話』大鎌 淳正（大和郡山ライオンズクラブ）

問題9

【正 答】 ③ 摂津

【解 説】

大和郡山藩の知行高は151,288石余であったが、その領地は大和国だけでなく河内国・近江国・伊勢国の村々に跨がっていた。柳澤氏入部当初の例で言えば、大和国内では78,750石しかなく、その他の石高は上記の国々に持つ飛地領に依っていた。

【文 献】

『大和郡山市史』大和郡山市役所 1966

「郡山藩の飛地領」長田光男(第50回「お城まつり」資料所収)

問題10

【正 答】 ② 森田 峠

【解 説】

高浜虚子を師として、門人に4Sと呼ばれた水原秋桜子・高野素十・阿波野青畝・山口誓子がいた。阿波野青畝の句活動に入会したのが森田峠。昭和～平成期の俳人で阿波野の「かつらぎ」の編集長を経て、平成2年に主宰となる。

【文 献】

「句碑」(柳澤文庫)

「俳諧と郡山」(長田光男)



森田峠の句碑(永慶寺)

問題11

【正 答】 ④ 枳穀地蔵

【解 説】

もと添上郡と添下郡の境に架かる郡界橋のたもとに祀られている地蔵で、昔、周囲に枳穀(からたち)の木を植えたことから「きこく地蔵」と呼んだ。下ツ道を旅する人や矢田寺詣をする人たちが拝んで通ったという。戦時中には出征した兵士のために「無事に帰国できますように」と家族がこの地蔵に祈りを捧げた。その後、佐保川改修の際、堤防から出土した地蔵も合わせ祀って、地元の高田町が大切に管理している。



枳穀地蔵堂

問題12

【正 答】 ① 植（殖）槻

【解 説】

『万葉集』巻13に「我が思ふ 皇子の命は春されば 殖槻か上の 遠つ人松の下道ゆ 登らして 国見あそはし」とある。これは高市皇子が持統天皇10年（696）に亡くなり、その挽歌の一節である。皇子が696年以前に殖槻の丘（現在の城北町西方の丘）に登って国見をされた時のことである。大和郡山市内で一番古く出てくる地名である。

【文 献】

『万葉集』巻13 - 3324 『ふるさと大和郡山歴史事典』大和郡山市 1987

問題13

【正 答】 ① 松村 武

【解 説】

早稲田大学在学中に、劇団「カムカムミニキーナ」を旗揚げ。自ら役者として出演しつつ作・演出を担当。平成15年には史上最年少で明治座の脚本・演出を手がけた。古事語り部座は「『語り部の里』として、語ること、語り継ぐことの大切を全国に発信したい」と上田清市長が命名。平成24年秋ごろをめぐりに、古事記を題材としたオリジナル作品の上演を目指し、やまと郡山城ホールで練習に励んでいる。②は市出身の映画監督。④は松村とともに「カムカムミニキーナ」を立ち上げ、テレビなどで活躍する奈良市出身の俳優。

問題14

【正 答】 ③ 泉大津市

【解 説】

近年、安価な輸入製品に押され厳しい状況にある地場産業を支援するために企画。金魚のニット製品は大和郡山市紺屋町の「おみやげ処こちくや」などで販売している。6月には全国金魚すくい選手権大会の認定大会が泉大津市で開かれた。

問題15

【正 答】 ③ 紺屋町

【解 説】

日本に古くから伝わる藍は色の美しさだけではなく、虫除けなど、さまざまな効果があるといわれ、現在でも多くの方に愛されている。箱本館「紺屋」では、天然灰汁発酵建ててんねん あく はつこう だという昔からの方法で仕込んだ藍でハンカチ、スカーフ、Tシャツ、日傘などの染め体験が気軽にできる。紺屋町は藍染めを職業とする

人が集まった職人の町で、豊臣秀吉の弟・秀長の時代（1585～1591）に成立したと考えられている

【参 考】

箱本館「紺屋」HPに掲載 城下町マップ等に掲載

問題16

【正 答】 ③ 大和郡山市観光協会

【解 説】

郡山城跡の桜は、天正6年（1588）に豊臣秀長が談山神社（桜井市）から移植したのが始まりで、江戸、明治にも植樹され、現在も「御殿桜」と呼ばれて多くの人々に親しまれている。「日本の桜100選」に選ばれている郡山城跡の桜は、シダレザクラ、ソメイヨシノ、ヤマザクラなど約1000本があざやかに咲き誇る。近年、桜の衰えが目立ってきたため、郡山城跡の桜を後世に引き継ぐため桜基金を募集するほか桜の現状調査や保護活動を行う。

【参 考】

大和郡山市観光協会HPに掲載

問題17

【正 答】 ① 元気城下町 柳楽屋

【解 説】

国や県の補助を受けて古い店舗を改装し、商業の活性化を図ることを目的に平成22年9月20日に柳町商店街にオープンした施設である。ここには、駄菓子コーナーや射的ゲーム等が楽しめる大和郡山市商工会青年部の「ちびっ子広場」や惣菜、野菜を販売する奈良佐保短期大学の「ゆめの丘さほ」が入居している。ほかにもレンタルスペース（コミュニティルーム）やトイレ等の設備がある。

問題18

【正 答】 ① 尾西 楽斎 小川 二楽

【解 説】

赤膚焼（あかはだやき）の土は鉄分を多く含んでいるため、焼きあがると器肌がほんのり赤くそまる。そこから赤膚焼と呼ばれるようになったといわれているが、もう一つの説としては、現在も赤膚焼の窯元が存在する奈良市の五条山が、かつては赤膚山と呼ばれていたからともいわれている。大和郡山市内の近鉄郡山駅の西側、徒歩約5分の所には窯元（小川 二楽）と JR郡山駅の南側、徒歩約1分の所には窯元（尾西 楽斎）がある。

問題19

【正 答】 ② 10

【解 説】

近畿地方以外での認定大会（平成23年分）は、名張大会（三重県）、長州大会（熊本県）、茨城行方大会（茨城県）、岡山・倉敷大会（岡山県）、山口大会、柳井大会（以上、山口県）、静岡下田大会、浜松大会（以上、静岡県）、甲府大会（山梨県）、東かがわ大会（香川県）の10大会である。なお、近畿2府4県では、千里大会、和泉大会、鶴見緑地大会、泉大津大会、阿倍野高松大会、東田辺大会（以上、大阪府）、京都・久御山大会（以上、京都府）、近江八幡大会、滋賀大会、（以上、滋賀県）、加古川大会、たつの大会（以上、兵庫県）の各大会が該当する。

問題20

【正 答】 ③ 東松島市

【解 説】

7月25日に宮城県東松島市の市立宮戸小学校を訪問し、金魚すくいを通じた交流を行った。郡山南小学校は金魚すくいが盛んで、課外活動に「金魚クラブ」もある。7月24日から3泊4日の日程で、4～6年の児童や保護者ら約80人が訪問。宮戸小へは、金魚や水槽、ポイなどの道具を持ち込み金魚すくいのコツなどを伝授し、全国金魚すくい選手権大会と同様のルールでミニ大会を開催し、市のシンボルの金魚を通じて、被災地の子ども達を励ました。